

一部の目標を徹底解説！



世界銀行が設定する国際貧困ラインは、1日約200円ほどです。1日をこれ以下で過ごさなければならない人が世界には7億3,600万人（2015年）います。「日本生協の父」といわれる賀川豊彦や、報徳思想を唱えて助け合いの組織「報徳社」をつくった二宮尊徳らも、貧困の根本解決に向き合いました。現在、先進国の日本でも7人に1人の子どもが貧困状態にあります。



現在世界人口の半分の約35億人が都市で暮らし、その数はこれからも増え続け、2030年までに都市住民は約50億人に達すると予測されています。都市に人口が集中することで、住宅不足、さまざまな設備の老朽化、大気汚染やごみの増加が課題となります。また、災害が発生した時に被害を最小限にとどめるまちづくりも必要です。



満足な食事をとれず、栄養不良な状態にある人は、世界には約8億2,100万人（2017年）もいます。世界初の協同組合といわれる、ロッヂデール公正先駆者組合が最初に店の棚に並べた商品は、小麦粉、砂糖、バター、オートミールでしたし、「農村協同組合の父」といわれるドイツのF・W・ライファイゼンは、飢えに苦しむ農民たちのために協同でパン焼き窯を作りました。協同組合のもっとも基本的な役割は、組合員に食料を補給することであり、組合員はそれをみんなで分かち合うことで絆を強めてきました。



協同組合の基本理念は「一人は万人のために、万人は一人のために」です。一貫して歩んできたその道は、SDGsが目指す世界に通じています。



国同士だけではなく、自治体、団体、企業、個人などあらゆる段階でパートナーシップを結び、動いていこうというのが最後の目標17です。

日本の協同組合は国内外における協同組合の協同に早くから取り組んでおり、自治体や企業、NGO、NPOとの連携も広がっています。

JA北ひびきが関連している事業



食への興味を持つもらうことや、理解を深めてもらうために小学生を対象に農産物についての授業を行っています。



農業用廃棄プラスチックの回収を行い、再生可能なエネルギーに再利用されています。リサイクルすることでCO₂の削減にもつながります。

わたしたちにできること

実際にSDGsに取り組もうとしても、何から手をつけていいか分からないと思う方も少なくないと思います。それぞれの目線で何ができるかを見ていきましょう。

消費者目線

- 環境に配慮されたマークの付いた商品を選ぶ。
- 家で食事をするときは、なるべくゴミを出さないように持ち寄りにしたり、地域の食材を使用する。

農業者目線

- 農業排水がもたらす湖沼や河川への影響を考慮する。
- 農作業に従事する外国人も増えており、その処遇についての課題の見直し。

労働者目線

- 省力化や会議と残業時間の短縮。

現状をしっかりと把握し、SDGsを意識した行動をとることが大切です！

今、世界中が注目している… SDGs

(エス・ディー・ジーズ)



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは…

SDGsとは「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」から一字ずつとった略称です。私たちの子や、孫、さらにはその先の世代までもずっと豊かに暮らしていくように、私たち自身が今やるべきことを大きく17個に分類したものがSDGsです。

国際連合(国連)が初めてから70周年となる2015年、193の加盟国が「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択しました。

「アジェンダ」とは、英語圏で「検討課題」「行動計画」という意味で使われています。この「2030アジェンダ」が掲げたもの。それが、17の目標と169のターゲット、そして詳細な244の指標からなる「持続可能な開発目標(SDGs)」なのです。

「2030アジェンダ」はあらゆる国が参加し、取り組まなければならない行動計画です。今までは地球がもたないという危機感から、将来にわたって続けていく世界を目指す必要があるのです。

構成されている“17の目標”



SDGsの特徴

普遍性

先進国を含め、すべての国が行動する。

包摂性

人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」を基本理念としている。

参画性

政府、企業、NGO(非政府機関)、有識者などすべてのステークホルダー(利害関係者)が役割を持っている。

統合性

社会・経済・環境いずれの側面も追求し総合的に取り組む。

透明性

モニタリング指標を定め、定期的に進捗確認。

SDGsがめざすのは、①地球の環境を守りながら、②すべての人が尊厳をもって生まれる社会と、③誰もが豊かな暮らしを継続的に営むことのできる経済を実現すること。①は環境、②は社会、③は経済の側面です。

上記図の、6、13、14、15の目標によって環境を守り、1、2、3、4、5、7、11、16の社会を実現し、8、9、10、12の経済活動を可能とする。これらすべてに欠かせないのが、17のパートナーシップです。

SDGsのロゴ



近年、ドーナツ型のカラフルなバッジを付けている人を多く見かけませんか？こちらのロゴはクリエイティブディレクターのヤーコブ・トロールベック氏によって作成されました。このような円形のデザインになったのは、「すべての目標が一つになり、統合されている印象を与えられる、太陽のような形状のものにしたかった。」と説明しているそうです。一見シンプルに見えますが、その中に込められた意味などを考えると、作成者のSDGsに対する強い思いが伝わってきますね。